

# 和地ひとみレポート No.227

## 第14回市長と語ろう会 タウンミーティング 30年後の市の姿を考える…



### ■第14回市長と語ろう会

…1月25日(水)19:00～と1月28日10:00～、第14回市長と語ろう会が開催されました。今回のテーマは『30年後の市の姿を考える～将来にわたって活力あるまち、生涯にわたって住み続けたいまちにするために～』。25日は平日の夜ということもあり、参加者は8名(うち市議会議員4名)、28日(土)の参加者は16名(うち市議会議員4名)でした。市長と語ろう会はテーマによって、参加者数に差が出ているのが実情ですが、今回は、初めて参加をしたという方の比率も高く、参加者も比較的多かったことから、このテーマについて関心を持ち参加しようと思った人は予想以上に多いのだと感じました。会の内容は、初めに市長から市政の近況についての報告があり、その後、配布資料に基づいた概況などの説明、意見交換会という流れで各回1時間30分でした。

### ■H72年の市の人口目標は78,801人

…今回配布された資料は、昨年、市が作成した人口の現状と将来の展望を明らかにした「東大和市人口ビジョン」と、平成27年度から平成31年度までの今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策が示された「東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略」からの抜粋でした。まず、国の人口の今までの推移と長期的な見通しからはじまり、東大和市の人口の推移と年齢構成、また、長期的な見通しについて説明がありました。ここで言うまでもなく、少子高齢化による人口減少社会の本格的な到来、また、高齢化、生産年齢人口の減少などにより、地域社会の活力の低下や行政サービスの低下など様々な影響を及ぼすと市は予想。国も平成72年(2060年)に1億人程度の人口を確保しようと考えて様々な施策を打ち出していますが、市においても市の人口の維持すること、社会保障費の抑制を図ることなど大きな施策の方向性を示しています。言い換えれば、市税納税者となる生産年齢の人口を維持、増加させ、高齢化により増加するとみられる社会保障費の抑制し、東大和市の行政サービスの低下を出来る限り抑制しようということだとの説明もありました。

#### 【東大和市の人口の将来展望】

～合計特殊出生率～

国の長期ビジョンの想定⇒H32年1.6、H42年1.8、その後H72年まで1.8を維持すると想定。

東大和市の合計特殊出生率⇒昨年公表されたH27年の区市町村別の結果では、東大和市は市部で第1位の1.67。国の長期ビジョンの想定と同様にするとした場合、H72年の東大和市の人口は78,801人で、市としてもこの人口を目標人口としている。

この人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計(何も施策を打たず今の流れで行った場合)の70,529人より約8,000人多い。

#### 【市の施策の方向】

目標人口であるH72年(2060年)の人口78,801人程度とする人口の将来展望の達成に向けて、市の特性や実情に合わせた基本目標及び施策の方向を設定する際に重視した考え方。

#### ① 「日本一子育てしやすいまち」をめざす

市では、市長自ら「日本一子育てしやすいまち」を目標に掲げ、これまで様々な子育てに関する支援に取り組んできた。この目標を継承し、より一層の子ども子育て支援に取り組み、「出生率の向上」及び「出生数の維持」を図る。

#### ② 東大和市の魅力を高めて、転入を促進し、転出を抑制する

これまで社会増(出生数と死亡数のプラスの差による自然増ではなく、人口移動すなわち人口流入数と流出数のプラスの差によるもの)の大きな要因であったマンション開発も落ち着き、近年の転入・転出の状況は拮抗してきており、今後の大幅な転入の増加は見込めない状況。また、国の方向性として「東京の一極集中の是正」が示されているところだが、東大和市において目標人口を達成するためには、転入者を増やしていくことも必要。そのため、市の将来の都市像である「人と自然が調和した生活文化都市」を目指し、市に移り住み、そして、次世代に渡って住み続けたいと思える魅力のあるまちづくりを行い、「転入の増加」と「転出の抑制」を図る。

#### ③ 健康寿命を延伸する

高齢化が進むと、地域の経済規模の縮小、社会保障費の増加などが見込まれるが、一方で、高齢者が元気に暮らせることにより、就業の機会や生きがいの創出、地域社会の活力にもつながる。そのため、健康施策や高齢者が培った知識や経験を社会で活かせる施策を行い「健康寿命の延伸」を図る。

#### ④ 生涯住み続けられるまちにする

市民が生涯にわたって住み続けたいと思えるまち、また、転入しようとする方に選んでもらえる魅力あるまちにするための施策は、行政施策を1つだけ取り出したものではなく、教育、福祉・医療、産業、住環境、自然環境、交通、防犯・防災、地域コミュニティなど、様々なものが複合的に関係しているものと考え。そのため「私たちがここで生まれ育つ子どもたちが心から『ふるさと』と呼べるにふさわしいまちを築き上げること」を目指す。(裏面に続く)

## 【市民の意識調査の結果】

昨年の7月に実施した市民意識調査より

### 「東大和市の魅力と感じている点や誇れると感じる点」

- 1: 狭山丘陵など身近に豊かな緑があるところ: 63.3%
- 2: 多摩湖があるところ: 49.1%
- 3: 買い物など日常生活に便利なおところ: 46.1%

### 「定住意向」

「今の場所に住み続けたい(62.0%)」、「市内のどこかに住み続けたい(8.5%)」を合わせた「定住したい」意向は70.5%。理由は「家や土地を持っているから(45.8%)」、「住み慣れているから(44.9%)」、「日常の買い物が便利だから(41.0%)」、「周辺の環境がよいから(39.9%)」

一方で「できれば市外に移りたい(10.4%)」と「今すぐにも市外に移りたい(1.7%)」を合わせた「転出したい」意向は12.1%。理由は「通勤通学に不便だから(19.6%)」、「愛着を感じないから(15.2%)」

…市民意識調査の結果で上位となった市の魅力や誇れる点は、市の行政が実現した物ではありません。一方で、公園の整備や、教育環境、文化・スポーツ施設の充実、障がい者・高齢者サービスなど、行政の取組みについて魅力、誇れると感じている市民は全て1%～2%台。この点については、参加した市民からも指摘されていました。東大和市は、魅力となっている自然環境等を強みとする一方で、市の施策や取組みでは、まだまだ、やれることがたくさんあるということだと改めて思いました。

## ■出された意見、質問は

…今回のテーマでは、いつもに増して様々な意見や質問が出ました。子育て世代の女性からは「子育て日本一などのキャッチフレーズは近隣市でも掲げている。周りのママさんたちとも話しているのだが“東大和市のこの子育てサービスが良い”と自慢したいところだが、何が他市に比べて良いのかが分からない。どのようなものがあるのか。」といったことや「子育てサービスを知りたい、聞きたい場合には市役所のどこに行けばよいのか。情報はどこで得たらよいのか。」といった質問が出ました。この質問を聞いて「病児・病後児保育のお迎えサービス」や昨年市が作成したスマートフォン向けの「子育てアプリ」が私の頭にはすぐ浮かびました。また、一時預かり保育も徐々に受け入れ枠を増やす取組みもされています。それらの取組みから、先日、日経デュアルと日経新聞が調査した「共働き子育てしやすいまち」ランキングでも4位にランキングされたということもあると思います。また、子育てサービス関連についての情報が得る場合、保育園関連なら市役所1階の保育課、学童保育関連なら3階の青少年課。また、子育てハンドブックには様々な子育て関連の行政サービスが書かれています。

…このようなことを、市長は答えるだろうと予想していましたが、市が誇れる子育てサービスについては「市内にいと、わかりづらいことが多い。」と述べるにとどまり、子育て関連の情報が得られる部署については「一つの窓口では全部は済まないの・・・」という答えにとどまりました。「日本一子育てしやすいまち」を目標に掲げている市長なのに、少し残念な回答だというのが、正直な感想。また、今回のように大きなテーマの場合は、意見や質問が多岐に及ぶ可能性も十分考えられ、特に子育て関連の質問や意見が出ることは想定できたと思います。市長だけでは対応できないこともあるのは当然。市民の皆さんが時間を割いて参加する会を充実したものとするためには、関連する職員への参加し、参加者が満足する情報を提供できる体制も必要だったのではないかと感じました。

## ■マーケティングの必要性

…その他にも子育て中の女性からは「今子育てをしている人が、もう一人人生んでも良いと思えるような、産前産後のママが喜ぶような行政サービスが必要。」(他市の家事代行サービスや保護者が病気などの時の送り迎えのサービス等の例を挙げて)という意見や、「幼稚園、保育園での保護者たちの話題は、学校教育の様子が良くわからないということ。教育内容によって、住み続けるかどうか悩んでいる人が多い。」「子どもを遊ばせる公園がない。砂場が犬や猫のトイレ状態のところが多い。」などの意見もありました。また、70代の男声からは「20代、30代の女性の意識調査をして、その実態を把握するべき。」とい意見も。その他には市長の「東大和市は経済的にも地理的にも都心に依存している状況で、30年後もその状況は変わらないと考えている。」という発言を受けて、20代の男性から「大学の卒論で調べたのだが、東大和市民の職場は立川、小平など近隣市の方という割合が高いから、都心への依存が高いというのは古い考えではないか。」と指摘し「人口減少を食い止めるという考えは“昔は良かった”という古い方向性ではないか。若者が考える方向性は“人口が減ってもうまく回る仕組み”だ。こういう若い世代の意見をくみ取るような取組みをすべき。」という意見が添えられました。これは、コンパクトシティの実現という考え方に近いと思います。また、「市民に愛着をもってもらい魅力あるまちにしたいのなら『市民の声を聞く課』のようなものを設けて、市民の意見をもっと聞き、活かすべき。」という意見や、「市のビジョンを明確にし、市民と共有すべき。」という意見も出ました。出てきた意見は個別具体的なものもありましたが、ポイントは「市はマーケティングをもっと取り入れて施策形成をすべき」ということだと思いました。行政はもっと外に目を向け、市民のニーズや実態、そして他市の情報を集め、分析するなどして、施策や事業に役立てるべきだと参加者は言っているのだと感じました。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

【プロフィール】

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。学校以外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。『人を活かす』経営を学ぶため一念発起カナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>  
✉ [wachi\\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp) 【電話・FAX】 042-516-8546  
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102



東大和市 市議会議員  
和地 ひとみ